

一上

勅令 一〇一	一海軍警査服制中ヲ改正ス	五月三十日	十七
勅令 一〇八	一神宮伶人服制ヲ定ム	六月八日	十八
勅令 一四三	一鐵道院職員服制中ヲ改正ス	六月三日	十九
勅令 一六四	一陸軍軍屬從軍服制ヲ改正ス	八月廿三日	二十
勅令 一九五	一官國幣社以下神社遷座祭ニ於テ前行ノ所役ヲ務ムル者ノ服制ニ関スル件ヲ定ム	九月九日	二十一

大正三年六月九日 内閣書記官

内閣總理大臣 (印) 内閣書記官長 (印)

外務大臣 (印) 陸軍大臣 (印) 海軍大臣 (印) 文部大臣 (印) 逓信大臣 (印)

内務大臣 (印) 陸軍大臣 (印) 司法大臣 (印) 農商務大臣 (印)

官職ナキ者ニ對スル榮典叙賜ノ件  
別紙閣議ニ供ス



國家又ハ公益ノ為功績アル者ヲ表彰スル  
各種ノ榮典ハ官職ヲ有スル者ニ厚クシ  
テ其ノ他ノ者ニ薄キノ嫌ナシトセス依テ  
今後官職ナキ者ニ對シ左記ノ方法ニ依リ  
其ノ功績ヲ表彰スルニ於テ遺漏ナキヲ期  
セムトス

一、現行榮典敘賜ノ範圍及程度ヲ改ムル

コト

二、學術技藝、教育慈善、殖産興業其他公

私家又ハ



參照

華族令

明治四十年五月八日  
皇室令第二號 宮内大臣副署  
朕奉 皇太后之命 公布之

- 第一條 凡有爵者之華族トス  
有爵者ノ家族ハ華族ノ族稱ヲ享ク  
第二條 爵ハ公侯伯子男ノ五等トス  
第三條 爵ヲ授ケルハ勅旨ヲ以テ宮内大臣  
之ヲ奉行ス  
第四條 有爵者ハ其ノ爵ニ相當スル禮遇ト享  
ク  
第五條 有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル  
禮遇及名稱ヲ享ク  
有爵者ノ室婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ從前  
ノ禮遇及名稱ヲ享クシメ其ノ家ノ戶主トナ  
ルトキハ其ノ者ニ限リ特ニ華族ノ族稱ヲ保  
有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享クシム  
第六條 有爵者ノ家族ニシテ左ニ掲ケタル者  
ハ華族ノ禮遇ヲ享ク  
一 曾祖父、祖父、父  
二 爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ法定ノ推定家督  
相續人及其ノ嫡子、嫡出ノ男子トキ  
キトキハ其ノ正長男子  
三 戶主トシテ者  
四 前二條ニ掲ケタル者ノ親屬者  
第七條 有爵者ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ  
者左ノ各條ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇  
ヲ享クコトヲ得ス  
一 禁治產者及準禁治產者  
二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘ  
サル者及家産分放者ハ破産ノ宣告ヲ受  
ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確  
定スルニ至ル迄ノ者  
三 刑事ノ訴ヲ受ケ留置又ハ保釋中ニ在ル  
者  
四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ

- 第八條 有爵者ハ法律命令及華族ニ關スル規  
程ノ範圍内ニ於テ家範ヲ定ムルコトヲ得  
家範ハ宮内大臣ノ認許ヲ受ケヘン之ニ廢止  
變更スルトキ亦同シ  
有爵者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ家  
範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得  
第九條 爵ハ男子ノ家督相續人トシテ之ヲ繼  
グ  
第十條 爵ヲ繼承コトヲ得ヘキ家督相續人又  
ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ開始ヲ知リタル  
時ヨリ六箇月内ニ宮内大臣ニ家督相續ノ届  
出ヲ爲スヘシ  
第十一條 爵ハ左ノ場合ニ於テハ家督相續人トシ  
テ繼承コトヲ得ス  
一 國籍喪失ニ因リ家督相續開始シタルト  
キ  
二 第十條第一項ノ期間内又ハ家督相續開  
始ノ時ヨリ三箇年内ニ家督相續ノ届出  
ヲ爲サザルトキ  
三 第二十二條又ハ第二十四條ニ依リ華族  
ノ族稱ヲ享ケザルトキ又ハ之ヲ失ヒ若  
シテ之ヲ除カザルトキ  
第十三條 有爵者及其ノ家族ノ身分ニ關シ監  
督上必要ナル事項ハ宮内大臣之ヲ管掌ス  
第十四條 有爵者之嫡子、養子、嫡孫、孫  
若シテ其ノ取消ヲ爲サズトキハ其ノ戶籍更  
ニ其ノ届出ヲ爲ス前、隱居ヲ爲スニ付キ裁  
判所ノ許可ヲ要スル場合ハ其ノ許可ヲ請求  
スル前宮内大臣ノ認許ヲ受ケヘシ  
有爵者遺言ヲ以テ養子繼承ヲ爲シ又ハ家督  
相續人ノ指定ヲ爲スノ意思ヲ表示シタルト  
キハ養子トナル者又ハ之ニ代ハリ承継ヲ  
爲スコトヲ得ヘキ者ニ在リ又ハ其ノ承諾ヲ  
爲ス前、被指定者又ハ其ノ法定代理人ニ在  
リハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許

- 第十五條 有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢  
除若シテ其ノ取消ヲ爲サズトキ又ハ被  
廢除者廢除ノ取消ヲ爲サズトキハ其ノ裁  
判所ニ請願スル前宮内大臣ノ認許ヲ受ケヘ  
シ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ廢除  
又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場  
合ハ此ノ限ニ在ラズ  
第十六條 有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレ  
タル者又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ承認ヲ  
爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受ケヘン  
第十七條 有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレ  
タル者、廢絶家再興又ハ他家相續ヲ爲シ若シテ  
他家ノ法定代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮内大  
臣ノ認許ヲ受ケヘン  
第十八條 有爵者又ハ其ノ法定代理人其ノ家  
人ハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受ケ  
ヘン  
第十九條 有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養  
子繼承ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ養子、家督  
相續人ノ指定又ハ選定ノ場合ニ於テハ其ノ  
家督相續人左ノ各條ノ一ニ該當セザルトキ  
ハ宮内大臣ノ認許ヲ受ケヘン  
一 養父又ハ被相續人ノ男系ノ六親等内ノ  
血親ニシテ他家ニ入リタル者ノ實方ノ  
親屬ヲ除ク  
二 本家又ハ同家ノ家族若シテ分家ノ戶主又  
ハ家督  
三 華族ノ族稱ヲ享ケタル者  
第二十條 宮内大臣ノ認許ヲ受ケヘキ者認許  
ヲ受ケシテ第十四條乃至第十八條ノ行為  
ヲ爲サズトキハ特ニ依リ華族ノ禮遇ヲ  
停止シ又ハ爵ヲ廢カシメザルコトアルヘシ

- 第十八條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ  
入爵者ハ華族ノ族稱ヲ享ケルコトヲ得ス  
第二十一條 有爵者死刑又ハ懲役ノ宣告ヲ受  
ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失  
フ  
有爵者ノ婚前項ノ場合ニ該當スルトキハ其  
ノ禮遇ヲ禁止ス  
第二十二條 第五條第二項ノ禮遇ヲ享クヘキ  
者又ハ有爵者ノ家族前條ノ場合ニ該當スル  
トキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ失フ  
新ニ爵ヲ授ケラレタル者ノ家族ニシテ前條  
ノ場合ニ該當スル者アルトキハ其ノ者ニ限  
リ華族ノ族稱ヲ享ケルコトヲ得ス  
第二十三條 有爵者又ハ第五條、第六條ノ禮  
遇ヲ享クヘキ者左ノ各條ノ一ニ該當セザルト  
キハ其ノ禮遇ヲ停止ス  
一 華族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者  
二 宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シテ情狀  
重キ者  
第二十四條 前二條ニ規定シタル場合ノ外華  
族ノ禮遇ヲ停廢スル失行アリタル者ノ情狀  
ニ依リ爵ヲ返上セシメ、華族ノ族稱ヲ除キ  
又ハ其ノ禮遇ヲ停止シテ禁止ス  
第二十五條 第六條ノ禮遇ヲ享ケタル家範ニシ  
テ前項ノ失行アリタル者ハ華族ノ族稱ヲ除  
ク  
第二十六條 有爵者其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止  
中ニ在ルトキハ第五條第一項、第六條ノ禮  
遇ヲ享クヘキ者モ其ノ禮遇ヲ享ケルコ  
トヲ得ス  
第二十七條 有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハ  
ザルトキハ宮内大臣ノ認許ヲ得テ返上ヲ請願  
スルコトヲ得  
第二十八條 第二十二條第一項、第二十三條、  
第二十四條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之  
ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ  
前項ノ處分及解除ニ付テハ有爵者ノ互選ニ  
依リ組織シタル懲戒委員會ノ決議ヲ經タル  
後勅裁ヲ經ヘシ  
第二十九條 禁錮以上ノ刑ノ宣告ニ由ル  
禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル  
第三十條 懲戒委員ノ互選ニ關スル規程ハ  
宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

益ノ為功績アリタル者ニ對シ別ニ表彰  
ノ方法ヲ審究スルコト  
三、前項ノ者ヲシテ國家並皇室ノ待遇ヲ受  
ケレムルノ途ヲ講スルコト



附則  
 本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治十七年奉勅達華族令及明治三年九月十日  
 太政官布告第百九十二號ニ準テ華族家人職員ニ關スル件ハ  
 之ヲ廢止ス

● 敍位條例

明治二十年五月六日  
 勅令第十號 大臣副署  
 朕敍位條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 敍位條例  
 第一條 凡ソ位ハ華族勅任官及國家ニ勳功  
 アル者又ハ表彰スヘキ勳績アル者ヲ敍ス  
 第二條 凡ソ位ハ正一位ヨリ從八位ニ至ル  
 六階トス  
 第三條 凡ソ位ハ從四位以上ハ勅授トシ宮内  
 大臣之ヲ奉ス正五位以下ハ奏授トシ宮内大  
 臣之ヲ宣ス  
 第四條 凡ソ位ハ刑法其ノ他特別ノ規定ニ於  
 テ定メラレタル場合ヲ除クノ外終身之ヲ有  
 セシム  
 特別ノ規定ニ於テ定メラレタル場合ニ該當  
 セサルモ有位者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セ  
 ラレ其ノ他體面ヲ汚辱スルノ行爲ヲ爲シタ  
 ルトキハ位記ヲ返上セシム  
 第五條 凡ソ位ハ從四位以上ハ爵ニ准シ禮遇  
 ナ享ク其准例左ノ如シ  
 公爵 侯爵 伯爵 子爵 男爵  
 從一位 正二位 從二位 正三位 正四位  
 第六條 爵位ヲ併有スル者ハ高キニ從テ禮遇  
 ナ享ク

● 勳章從軍記章制定

明治八年四月十日  
 太政官布告第五十四號  
 今勳章別冊ノ通被定候條此旨布告候事  
 (別冊)  
 (△印原書未字)  
 朕惟フニ凡ソ國家ニ功ヲ立テ績ヲ顯ス者宜ク  
 之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユヘシ仍テ勳等賞牌ノ  
 典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知  
 ラシメントス汝有司其斯旨ヲ體セヨ  
 明治八年二月  
 勳等勳章  
 勳等ハ勳績及功勞アル者ヲ賞スル爲メニ設  
 ケル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種  
 ノ勳章ヲ佩用セシム  
 勳等ヲ分テ八級ト爲ス  
 勳一等  
 右ニ叙スル者ハ一等勳章ヲ賜フ

勳二等  
 右ニ叙スル者ハ二等勳章ヲ賜フ  
 勳三等  
 右ニ叙スル者ハ三等勳章ヲ賜フ  
 勳四等  
 右ニ叙スル者ハ四等勳章ヲ賜フ  
 勳五等  
 右ニ叙スル者ハ五等勳章ヲ賜フ  
 勳六等  
 右ニ叙スル者ハ六等勳章ヲ賜フ  
 勳七等  
 右ニ叙スル者ハ七等勳章ヲ賜フ  
 勳八等  
 右ニ叙スル者ハ八等勳章ヲ賜フ  
 從軍記章  
 從軍記章ハ將卒ノ別ナク軍功ノ有無ヲ論セ  
 ズ凱旋ノ後從軍セシ勳ニ之ヲ賜フ

一 勳章及從軍記章ハ佩用本人ニ止リ子孫之ヲ  
 用ユルヲ得ス  
 【賞牌】佩用式  
 一 賞牌ハ勳一等ニ限リ必ス勳二等ノ牌ト共  
 ニ兩箇ノ牌ヲ佩ヘシ其他二等以下ハ一箇ヲ  
 佩ルヲ規則トス譬ハ三等ノ牌ヲ佩ル者勳二  
 等ニ叙スルトキハ嘗テ佩フル所ノ三等牌ヲ  
 止メ二等牌ノミ佩ルカ如シ  
 一 賞牌ハ禮服ノトキ佩ヘシ平服ニハ佩フヘ  
 カラス平服ニハ略綬ヲ左襟見返ノ鈕穴ニ掛  
 ケ其表トス  
 一 一等賞牌ハ幅廣キ綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇  
 へ斜ニ佩フ  
 一 二等賞牌ハ右肋ノ邊へ綬ヲ不用針ニテ狭  
 ミ佩フ  
 一 三等賞牌ハ綬ヲ領ニ纏ヒ喉下ニ佩フ  
 一 四等以下ノ賞牌及從軍牌ハ左肋ノ邊へ左  
 ニ列シ佩フ

勳	一 等	勳	二 等	勳	三 等	勳	四 等
章	金日章徑二寸五分 <small>日本勳章法 光緒廿九年</small>	金日章徑三寸 <small>日本勳章法 光緒廿九年</small>	金日章徑一寸八分 <small>日本勳章法 光緒廿九年</small>	金日章徑一寸五分 <small>日本勳章法 光緒廿九年</small>	金日章徑一寸五分 <small>日本勳章法 光緒廿九年</small>	金日章徑一寸五分 <small>日本勳章法 光緒廿九年</small>	金日章徑一寸五分 <small>日本勳章法 光緒廿九年</small>
環	金圓形 <small>花邊飾線 花邊飾線</small>	無環佩針銀	金圓形 <small>花邊飾線 花邊飾線</small>	無鈕	金圓形 <small>花邊飾線 花邊飾線</small>	金圓形 <small>花邊飾線 花邊飾線</small>	金圓形 <small>花邊飾線 花邊飾線</small>
綬	幅四寸 紅白織	無綬	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織	幅一寸 紅白織
從軍記章	從軍記章 銀桐條紋圓章徑一寸	從軍記章 銀桐條紋圓章徑一寸	從軍記章 銀桐條紋圓章徑一寸	從軍記章 銀桐條紋圓章徑一寸	從軍記章 銀桐條紋圓章徑一寸	從軍記章 銀桐條紋圓章徑一寸	從軍記章 銀桐條紋圓章徑一寸
鈕	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀
綬	幅一寸 綠白織	幅一寸 綠白織	幅一寸 綠白織	幅一寸 綠白織	幅一寸 綠白織	幅一寸 綠白織	幅一寸 綠白織



●褒章條例  
 明治十四年十二月七日  
 太政官布告第六十三號  
 改正 二七五號第一號  
 褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 右奉 勅旨布告候事  
 (別紙)

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述ニ教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河堤堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞績著明ナル者又ハ表裏スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章  
 右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章  
 右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章  
 右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河堤堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞績著明ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリトシテモ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ空狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其程度節版一箇ヲ賜典シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條 褒章ハ本人ニ限リ其身之ヲ佩用シ及ヒ遺族トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セシメられたルキハ之ヲ沒收シ其未タ授典セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授典セズ

褒章ノ額

章	銀櫻花紋圓形二九分
鈕并飾版	銀
綬	幅一寸 種類ニヨリ紅綠藍三色ノ別アリ



奏 爵



大正元年七月三十日前ノ日附ヲ以テ交付スヘキ勲三等功五級以上ノ勲記ニ關スル件

右謹テ奏ス  
 大正三年八月二十一日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

